

科目名称	薬理の知識				ビジネス・キャリア	( )	オフィス情報	( )	
英文科目名称	Introduction to Pharmacy				グローバル・コミュニケーション	( )	医療事務・医療秘書	(必)	
科目コード	531103	授業形態	講義	単位数	4				
教員氏名	木村 貴信		年次配当	2年次	通年	ホテル・観光	( )	大学編入	( )
実務経験教員担当	○有・無		アクティブラーニング			○有・無			
授業概要及び授業方法	<p>医師、薬剤師、看護師等が本来の業務に徹することができるように、パイプ役として活躍できる人材を養成する。そのためには「薬」の知識は切っても切り離せないものである。専門学校であれば、認定試験の合格を第一目標とすることもかまわないが、本学では実践で役立てることができるような「薬」の知識をしっかりと身につけることを目指す。毎時間小テストを作成し、理解度を確認する。</p>								
関連する科目	医療事務				卒業認定(学習成果)との関連		①, ②, ③		
授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療用医薬品・一般用医薬品・健康食品の違い</li> <li>2. 西洋薬と漢方薬との違い</li> <li>3. ジェネリック医薬品とは何か</li> <li>4. 投与方法はなぜいろいろあるのか</li> <li>5. 剤形の特徴は何か</li> <li>6. 薬は身体の中をどのように運ばれていくのか</li> <li>7. 服用時期はなぜいろいろあるのか</li> <li>8. 薬はどのようにして効果を発揮するのか</li> <li>9. 薬の飲み合わせによる影響はどのようなものがあるのか</li> <li>10. 嗜好品の薬への影響</li> <li>11. 副作用はなぜ生じるのか</li> <li>12. 投与する際に注意が必要な患者(高齢者の場合)</li> <li>13. 投与する際に注意が必要な患者(小児の場合)</li> <li>14. 投与する際に注意が必要な患者(妊婦の場合)</li> <li>15. 投与する際に注意が必要な患者(授乳婦の場合)</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓や血管に作用する薬</li> <li>2. 消化性潰瘍治療薬</li> <li>3. 便秘治療薬・下痢治療薬</li> <li>4. 気管支喘息治療薬</li> <li>5. かぜ治療薬</li> <li>6. 糖尿病治療薬</li> <li>7. 痛風治療薬</li> <li>8. 脂質異常症治療薬</li> <li>9. 細菌感染症治療薬</li> <li>10. ウイルス感染症治療薬</li> <li>11. うつ病治療薬</li> <li>12. 睡眠薬</li> <li>13. 認知症治療薬</li> <li>14. がんに作用する薬(抗がん剤)</li> <li>15. その他の病気に用いる薬</li> </ol>								
授業時間外の学習	<p>【予習】「指定した教科書を事前に熟読し、次回の講義内容を把握する」(30分程度)</p> <p>【復習】「授業終了後に示す課題についてレポートを作成する」(30分程度)</p>								
授業の到達目標	<p>どうして薬学を学ばなければならないかを理解したうえで主要な医薬品の成分、特徴を覚える。また、その医薬品を服用したとき、身体の中でどのような作用が起こっているのかを理解する。</p>								
課題に対するフィードバック	採点後のレポートに修正点を明記して返却する。				評価方法・基準		定期試験 60% 課題提出 20% 受講態度 20%		
テキスト	日本医師会監修「医療秘書講座2 身体の構造と機能 臨床検査と薬の知識」メヂカルフレンド社								
参考書	中原保裕著「薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム」学研メディカル秀潤社								
備考	調剤薬局で薬剤師としての実務経験を有する教員が授業を担当								